

プロッコリー塩水灌水苗の極少量灌水定植法

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

野菜 - プロッコリー - 育苗、移植

2 担当者

常盤秀夫・水野由美子

3 要旨

プロッコリーの育苗時セル苗への塩水灌水により収穫の齊一性が高まる。この苗を利用し、機械定植時に極少量(20mL/株)の灌水を行うことで、強乾燥条件下での活着を向上させることができた。

(1) 育苗時に塩水を灌水したセル苗を、土壤水分1.2%の乾燥土壤に定植し、同時に20mLの少量灌水した場合、2日間断水しても、その後灌水を再開すれば欠株とならず100%の苗が生存した(表1)。

(2) その後の生育は、定植時から充分に灌水したものと比べて、ほぼ同等であった(表2)。

表1 強乾燥下での定植時灌水量と断水期間が塩水灌水苗の生存率に及ぼす影響

定植時の灌水量	多灌水	少灌水			無灌水		
定植後灌水再開までの断水期間		2日後	3日後	4日後	2日後	3日後	4日後
育苗時塩水灌水	100%	100%	67%	17%	17%	25%	0%
通常育苗	100%	25%	0%	0%	0%	0%	0%

* 定植以降は一時断水し、上記日数経過後充分な灌水を行った。

表2 強乾燥下での定植時灌水量・断水期間と塩水灌水苗の定植40日後の最大葉長(cm)

定植時の灌水量	多灌水	少灌水
定植後灌水再開までの断水期間		2日後
育苗時塩水灌水	32.0	31.7
通常育苗	31.8	-

4 主な参考文献・資料

(1) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)